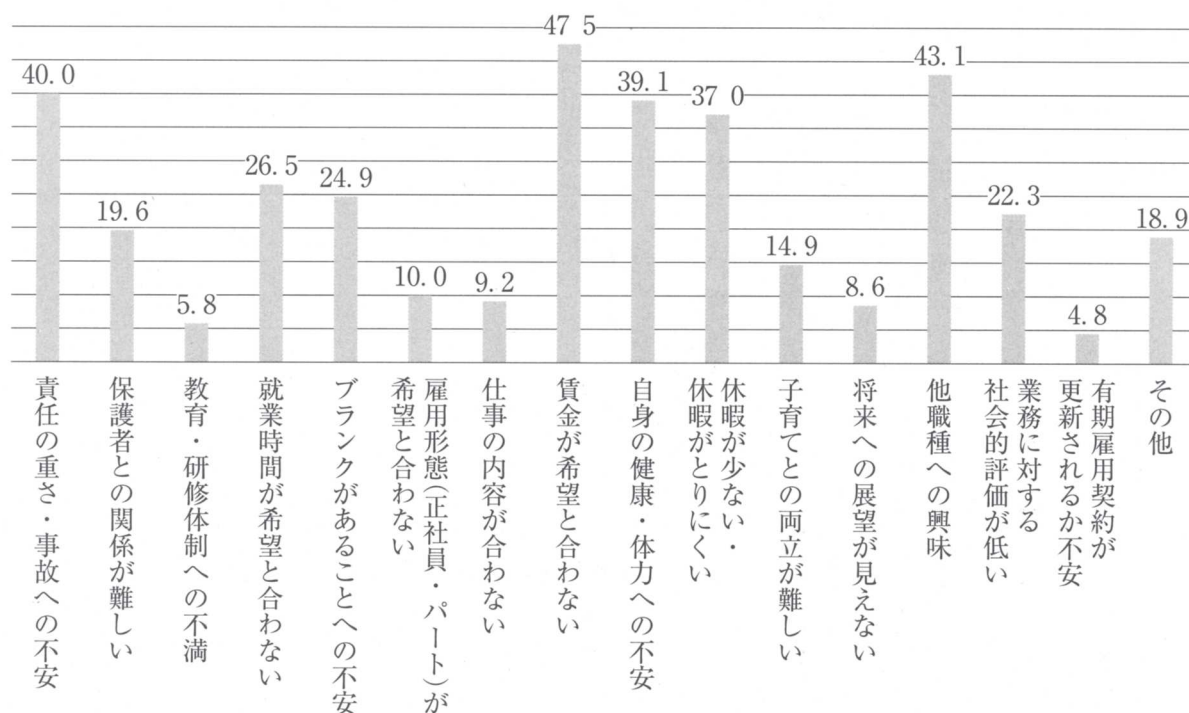


グラフ 3 保育士としての就業を希望しない理由(複数回答)

(%)



(厚生労働省「保育人材確保のための『魅力ある職場づくり』に向けて(2014年8月)」により作成)

**広大** 表2を見ると、保育士の新規求人倍率が一番高いのは東京の4.63倍であり、就職希望者数に対して、求人数が少ないことが分かります。また、グラフ2を見ると、保育資格を有しているにも関わらず、保育士職種の就業を希望しない割合が約半数います。就職するのが難しい職種であることが、保育士希望者を減らしているのではないのでしょうか。

**志保** 表2を見ると 保育士の新規求人倍率が一番低いのは山梨の0.86倍であり、就職希望者数に対して、求人数が少ないことが分かります。また、グラフ2を見ると、保育資格を有しているにも関わらず、保育士職種の就業を希望しない割合は約2割です。就職希望者数と求人数に差があることが、保育士になるハードルを上げているのかもしれないですね。

**理人** 表2を見ると 保育士の新規求人倍率は、9割以上の都道府県で1倍を超えており、人手が足りないことが分かります。また グラフ3を見ると、保育士としての就業を希望しない理由として、「賃金が希望と合わない」と回答した割合が一番多くなっています。保育士を確保するうえで、賃金の問題は取り組むべき課題といえます。

**佳世** 表2を見ると、保育士の新規求人倍率は、9割以上の都道府県で1倍を下回っており、人手不足感が広がっていることが分かります。方、グラフ3を見ると、保育士としての就業を希望しない理由として、「業務に対する社会的評価が低い」と回答した割合が一番多くなっています。社会的に評価されることは仕事へのやりがいに直結しているようです。

① 広大

② 志保

③ 理人

④ 佳世